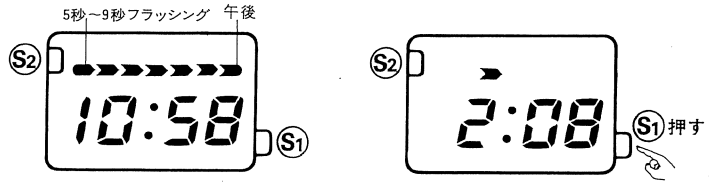
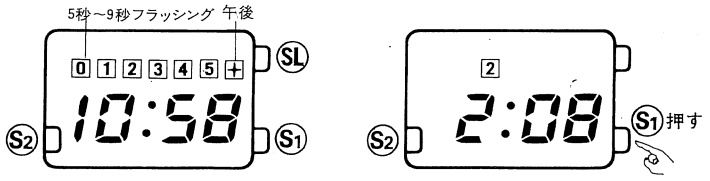
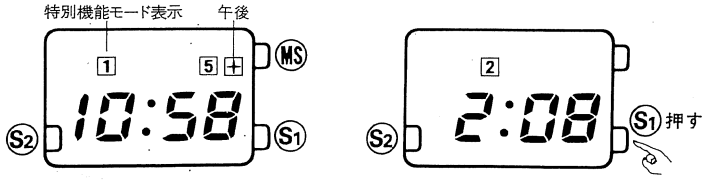
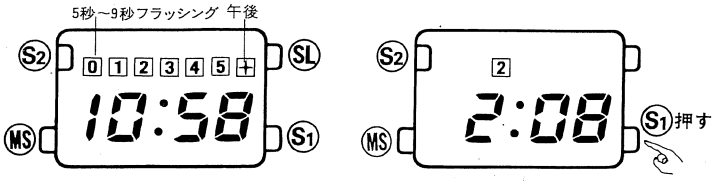
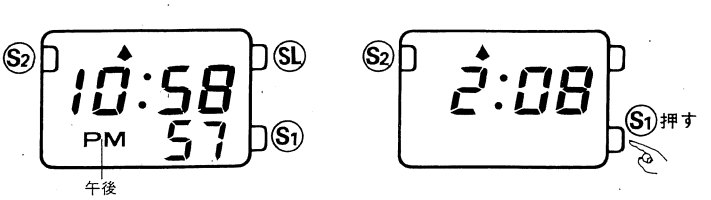
本書は、旧製品の取扱説明書を電子化したものです。
一部見えにくい箇所がございます。

記載されている内容はすべて販売当時のものです。
仕様や価格などは、その後予告なしに変更されることがあります。
あらかじめご了承ください。

表示のシステムと操作タイプ

Ⓢ1時刻表示のとき押すとカレンダー表示になります。
Ⓢ2時刻・カレンダーの訂正のとき押します。
Ⓢ3±30秒クリアの0秒修正のとき押します。
ⓈⓁライトボタン。
ⓂⓈ表示を特別モード機能に切替えるとき押します。

Bタイプ操作

1	R-11Mシリーズ R-11B 〃 R-11B1 〃 R-12L 〃 R-15B 〃 R-15B1 〃 R-19B 〃 O-11B 〃		0秒修正
2	S-12Bシリーズ R-16B 〃 R-14B 〃 GR-14B 〃		0秒修正 ⓈⓁライト付
3	カシオトロンX-1 S-14Bシリーズ R-17B 〃 GS-14B 〃		0秒修正 ⓂⓈ特別機能 ストップウオッチ カウンター 世界時計 デュアルタイム(別時計)
4	カシオトロンSTシリーズ S-15Bシリーズ S-16B 〃 S-16B1 〃 R-18B 〃 GS-15B 〃 GS-15L 〃 GS-15L1 〃 S-17B(表示はB2) S-18B(ⓈⓁボタン無) S-18B1(〃) GS-18L(〃)		0秒修正 ⓂⓈ特別機能 ストップウオッチ デュアルタイム(別時計)
5	6桁カシオトロン 37CR-10Bシリーズ		0秒修正 ⓈⓁライト付

Bタイプ操作方法 （例 R-15Bシリーズ）

通常は

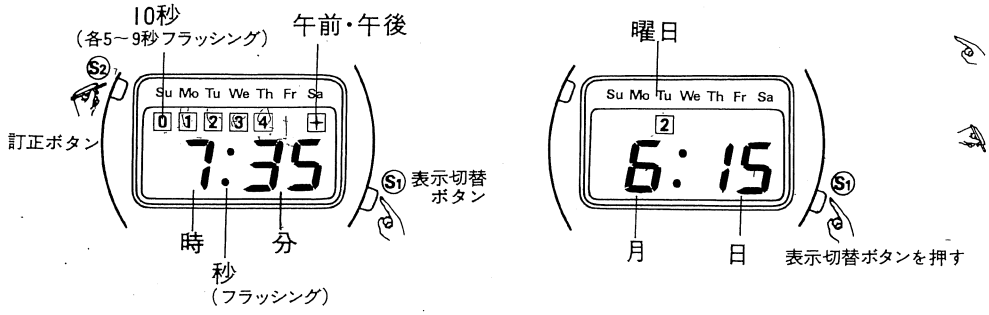
時、分、10秒、5秒、秒、午前/午後

午後7時35分45秒

表示切替ボタンを押すと

月、日、曜日

6月15日（火曜日）



Ⓢ1通常は表示切替ボタンですが、時間・カレンダーの修正・0秒修正のときも操作します。

Ⓢ2時間・カレンダーの修正・0秒修正・時差修正のとき操作します。

■基本時計の合わせ方

●時刻合わせ　例：午後7時35分

	操作手順	表示
Ⓢ 10:25	1 **セット条件** 秒表示が50秒～59秒(5まで点灯・フラッシング)のとき訂正ボタンⓈ2を押す	・「時」表示が1時間ずつすすみます 午後表示⊞は12時を過ぎるごとについたり＝PM(午後) 消えたり＝AM(午前)します
7:5 Ⓢ1	2 「午後表示」⊞がつき「7時」のときボタンⓈ1を押す	・「10分台」表示があらわれ10分ずつ進みます
7:38 Ⓢ1	3 「10分台」表示が「30分」のときボタンⓈ1を押す	・「1分台」表示があらわれ1分ずつ進みます
7:35 Ⓢ1	4 「1分台」表示が「5分」のときボタンⓈ1を押す	・「午後7時35分」がセットされ時計が停止状態になります
7:35 Ⓢ1	5 もう一度Ⓢ1を押す	・「秒」表示がフラッシングして午後7時35分ジャストより時を刻みはじめます

●時報にあわせるには現在時刻より1分ぐらいすすませたところでセットしておき時刻が時報にあったとき操作5でスタートさせます。

●カレンダー合わせ　例：6月15日We(水)

カレンダー合わせ中も時刻は正確にカウントされています。

	操作手順	表示
Ⓢ 5:30 Ⓢ1	1 **セット条件** 表示切替ボタンⓈ1を押し「カレンダー表示にしたまま」で訂正ボタンⓈ2を押す	・「月」表示を残して他は消え「月」表示がひと月ずつ進みます
6:2 Ⓢ1	2 「月」表示が「6月」になったときボタンⓈ1を押す	・「10日台」表示があらわれ「10日」ずつ進みます
6:18 Ⓢ1	3 「10日台」表示が「10日」になったときボタンⓈ1を押す	・「1日台」表示があらわれ「1日」ずつ進みます
6:15 Ⓢ1	4 「1日台」表示が「5日」になったときボタンⓈ1を押す	・「曜日」表示があらわれ0 1 2 … 5 ⊞ 0 …とひとつずつ移動していきます
6:15 Ⓢ1	5 「曜日」表示が「3 We(水曜日)」にきたときボタンⓈ1を押す	・「6月15日We(水曜日)」がセットされボタンⓈ1をはなすと同時に時刻表示にもどります

● 0秒修正のしかた（±30秒クリア）

このカシオトロンは、高精度です。したがって、月に一度、この「0秒修正」を行っていただけますと、時計はいつも正確です。29秒以内の「進み」、30秒以内の「遅れ」は、次の方法で簡単に行えます。

〈29秒以内の「進み」の場合〉例：7時0分1秒～29秒の進みを7時ピタリに合わせる

	操作手順	表示
Ⓢ 6:59	1 **セット条件** 秒表示が0秒～49秒(0 1 2 3 4の間で点灯・フラッシング)のとき訂正ボタンⓈ2を押す	・すべての表示がフラッシングを始めますがこの間も時刻はカウントされながら進んでいきます
7:00		
7:00 Ⓢ1	2 0秒修正は分単位でおこなえます。時報にあわせて表示切替ボタンⓈ1を押しゆっくり離してください。	・この瞬間より29秒以内の「進み」が0秒にもどりジャストタイムよりカウントを開始します

〈30秒以内の「遅れ」の場合〉例：6時59分30秒～59秒の遅れを7時ピタリに合わせる

	操作手順	表示
Ⓢ 6:59	1 **セット条件** 秒表示が0秒～49秒(0 1 2 3 4の間で点灯・フラッシング)のとき訂正ボタンⓈ2を押す	・すべての表示がフラッシングを始めますがこの間も時刻はカウントされながら進んでいきます
6:59		
7:00 Ⓢ1	2 0秒修正は分単位でおこなえます。時報にあわせて表示切替ボタンⓈ1を押しゆっくり離してください。	・この瞬間より30秒以内の「遅れ」を0秒に規正しジャストタイムよりカウントを開始します (時、分は同時にくりちがります)

●修正後各ボタン機能が作動しない場合はボタンⓈ2を押して訂正操作をおこなってください。

●時差修正のしかた

(例) 現在の表示　　午前11時30分50秒(日本標準時間)
ハワイ標準時間　　午後4時30分50秒(時差－5時間)
時差5時間であるので午後4時だけの修正を行えばハワイ時間のセットがおこなえます。

	操作手順	表示
Ⓢ 11:30	1 **セット条件** 秒表示が50秒～59秒(5まで点灯・フラッシング)のとき訂正ボタンⓈ2を押す	・「時」表示を残して他は消え1時間ずつ進み12時をすぎると午後表示⊞がつきます
3:		・セットした「午後4時」とカウントをつづけている「分」「秒」が同時に表示され「午後4時30分50秒」のハワイ時間に修正されます (実際には操作時の経過時間もカウントされていますので正しい時刻にあっています)
Ⓢ 4:30	2 「午後4時」のとき訂正ボタンⓈ2を押す	

●日付変更はカレンダー合わせの要領で合わせてください。

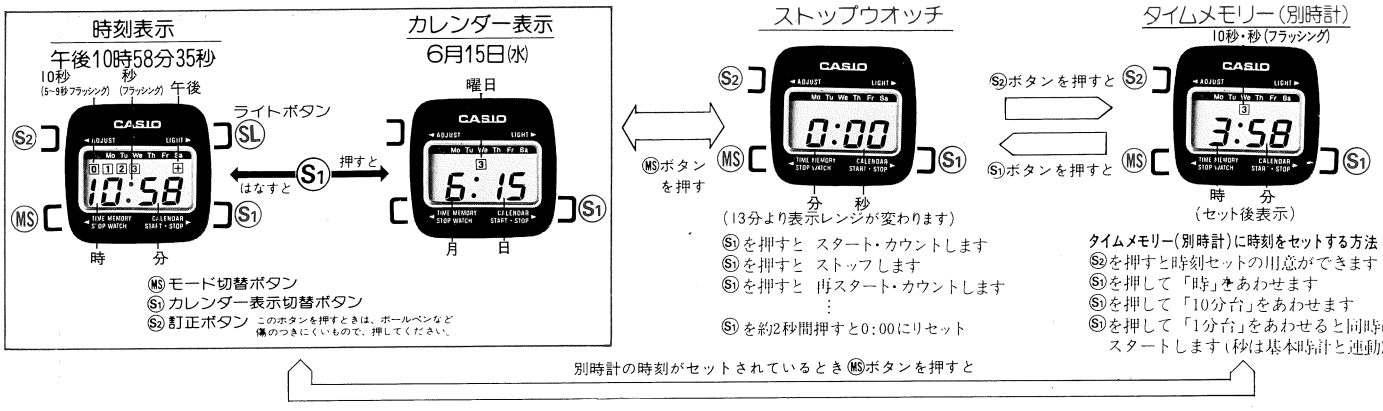
注：10秒、曜日表示には1. 0 1 2 3　2. 3　3. ➨➨➨➨の表示方法がありますが操作は
10秒、曜日表示が➨➨➨の場合、午後表示は➨，1 2 3の場合は⊞マークになります。
大、小の月を自動判別する電子頭脳が内臓されていますが、2月末日のみ28日制オートカレンダーになっております。ごめんどうでも4年に1度うるう年のみ2月29日にカレンダー合わせをおこなってください。

カシオトロンSTシリーズの使い方

1．基本時計の操作

●時刻合わせ＝0秒修正　●時刻合わせ　●カレンダー合わせ　●時差修正はBタイプ操作方法に準じます。

2．カシオトロンのしくみと見方

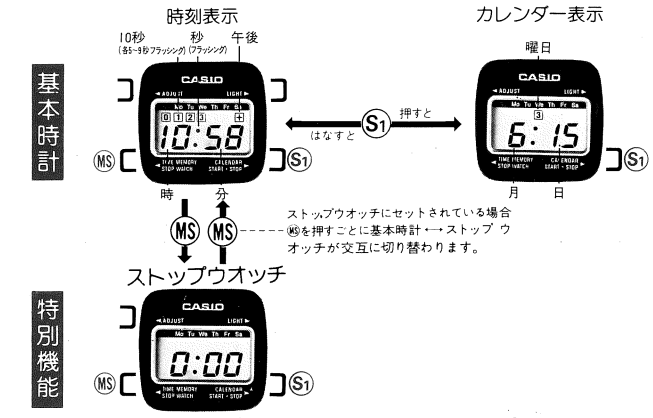


● カシオトロンSTは 基本時計 時刻表示 ⇔ カレンダー表示 または 基本時計 時刻表示 ⇔ カレンダー表示 のいずれかの組合わせで使用できます。

基本時計 時刻表示 ⇕ ストップウオッチ

基本時計 時刻表示 ⇕ タイムメモリー(別時計)

■ストップウオッチの使い方



●基本時計からストップウオッチにするには

Ⓜⓢを押す → 0:00

[ゼロ表示以外のときはⓈ①を0:00になるまで押しておく
タイムメモリーにセットされているときはⓈ①を0:00になるまで押しておく]

●ストップウオッチの操作のしかた

スタートⓈ①を押す → 0:01 → 0:02 → 0:03 → ····

ストップⓈ①を押す → 0:23

リセットⓈ①を → 0:00

0:00になるまで押しておく

(カウントは続きますが2秒後ぐらいにリセットされ0:00になります)

ロスタイムがある場合

A タイム スタートⓈ①を押す → 0:01

A タイム ストップⓈ①を押す → 0:23

(リセットせずに、そのままスタートⓈ①を押せば、表示タイムに加算)

＋

B タイム スタートⓈ①を押す → 0:24

B タイム ストップⓈ①を押す → 0:56

リセットⓈ①を → 0:00

0:00になるまで押しておく

ストップウオッチ使用中に基本時計の時刻を見たい場合

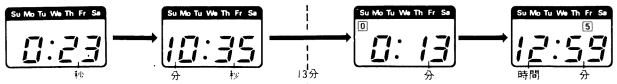
ストップウオッチをリセットせずにそのままⓂⓢを押せば、基本時計の時刻が表示されますが、ストップウオッチ機能は、カウントが続けられています。

0:08

Ⓜⓢを押して、時刻表示にする → 基本時計 時刻表示 ⇔(Ⓢ①を押すと / はなすと)⇔ 基本時計 カレンダー表示

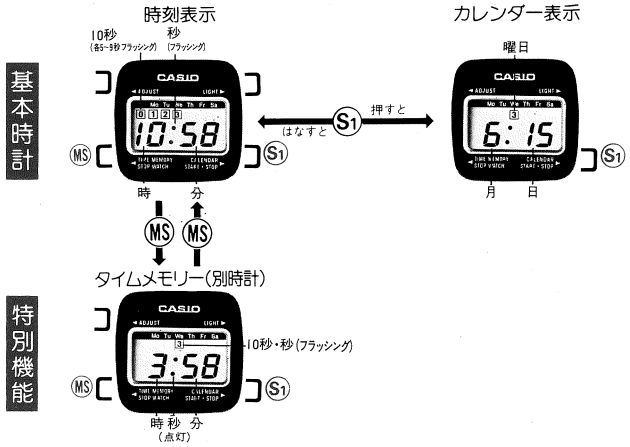
Ⓜⓢを押して、ストップウオッチにする → 1:25

●13分までの時間は、秒単位のストップウオッチとしてお使いいただけます。尚、13分以降は、日常生活で便利な「時・分計」としてお使いください。



●基本時計にもどすときはⓂⓢを押してください。以後Ⓜⓢを1回押すごとにストップウオッチ→基本時計→ストップウオッチ……と切替ります。

■タイムメモリー(別時計)の使い方



タイムメモリーの時刻セット後は、以後Ⓜⓢボタンを一回押すごとに基本時計→タイムメモリー→基本時計……と切替ります。

●基本時計の表示　秒表示：フラッシング　10秒表示　□点灯(0～4秒)フラッシング(5秒～9秒)

●タイムメモリーの表示　区切点：点　灯　　10秒・秒表示　□ワンポイントフラッシング

●タイムメモリー(別時計)の時刻セットのしかた(例:午前3時58分)

		操作手順	表示
Ⓜⓢ 0:00	1	基本時計の状態からⓂⓢボタンを押して、特別機能に切り替えます。	・このときストップウオッチの状態でも可能です。
Ⓢ② 5:	2	訂正ボタンⓈ②を押すと自動的にタイムメモリーの時刻セット状態になります。	・「時」表示が1時間ずつすすみます。午後表示[+]が12時を過ぎるごとについたり＝PM(午後)消えたり＝AM(午前)します。 ・「10分台」表示があらわれ10分ずつすすみます。
3:2 Ⓢ①	3	「午後表示」[+]の点灯しない状態で「3時」のときボタンⓈ①を押す。	
3:56 Ⓢ①	4	「10分台」表示が「50分」のときボタンⓈ①を押す。	・「1分台」表示があらわれ1分ずつすすみます。
3:58 Ⓢ①	5	「1分台」表示が「8分」のときボタンⓈ①を押す。	・午前3時58分がセットされ時計は自動的にスタートします。(秒表示は基本時計の「秒」と自動的に連動しています。)
Ⓜⓢ 10:58	6	Ⓜⓢボタンを押すと基本時計の時刻表示にもどります。	

●タイムメモリーをクリアーまたはストップウオッチにするにはⓈ①ボタンを表示が0:00になるまで押しておきます。